



東都クラブの目指すもの

野球の力で子供たちの人間力を育てる

東都クラブは、野球という競技を通じて人格と人間力の育成を目的とする団体です。クラブには、公益財団法人日本少年野球連盟(通称ボーイズリーグ)に加盟し中学硬式野球を行う京葉ボーイズを中心とする球団、小学生を対象とするアカデミーがあります。

2009年に東都京葉ボーイズとして設立、2023年に創部14年を迎えます。設立以来、私は野球という絆で結ばれた共同体を作りたい、故郷を愛し人を愛する次代を担うリーダーとなる財(たから)を育てたいと言い続けてきました。

私たちが育った昭和の時代、子供たちは地域共同体の絆の中で強く大きく育てられました。今日、特に首都圏では都市化と核家族化が進み、隣人のおつきあひも希薄となり、学校に熱血先生はいなくなりました。寂しいことですが愛すべき昭和の故郷は消滅してしまいました。

私は、野球というスポーツの力で地域共同体の絆を復活させたいと考えています。特に男の子は中学期に最も成長します。心身ともに健全で志のあるニッポン男児をどんどんと育て世界に羽ばたかせたいと考えています。

故郷を愛し 人を愛す 東都京葉の地から世界へ

創部以来、終礼で子供たちが唱和するチームスローガンにはそんな思いが込められています。

東都クラブ
オーナー 兼 球団代表 勝本俊朗



指導方針について

3度の全国制覇を成しえた東都クラブメソッドとは

育成こそがクラブの使命

優勝はあくまでも目標であり目的ではない

SPORTS IS SCIENCE という考えに基づき

IMG アカデミー、早稲田大学ベースボール科学研究所と提携

ケガをしない身体づくり、ムーブメントスキルの習得を実践しています

スポーツは科学です。いたずらな精神論を排除し子供たちの成長に応じた科学的根拠に基づいた指導を行っています。監督、コーチなど東都クラブのスタッフは、自らの経験だけではなく最新のトレーニングや技術論を常に学んでいます。

また選手には、トレーニングや野球技術について、その意義や効果について常に考えるよう指導しています。どこを鍛えているのか、それが実際にどう活きるのかを知ること、野球がぐんぐんと上手くなるのです！

身体づくり > トレーニング > 野球技術

トレーニング DAY とスポーツ栄養学セミナー

先ず中学生は技術よりも身体づくりを優先するべきだと考えます。股関節を中心とする身体の使い方(ムーブメントスキル)を知らなければ打つ、投げるなど野球技術を身につけることはできません。

野球選手の最大の武器は体重です。体重をコントロールできるようになるためには骨盤や股関節のムーブメントスキルを学ばなければなりません。東都クラブは米フロリダ科州にある IMG アカデミーとの提携し科学的なトレーニングを実践しています。

また、早稲田大学ベースボール科学研究所から土橋恵秀氏と理学療法士チームを招聘し、「ケガをしない、させない」をテーマにトレーニングデイを設けています。

また身体づくりに欠かせないのは食べる力です。お母さまを対象に、「何を、いつ、どのくらい食べたらいいか」などなど具体的なアドバイスを行う**スポーツ栄養学セミナー**をチーム専属の管理栄養士により定期的実施しています。

トレーニングメニューとスポーツ栄養学セミナーの動画とテキストを準備、データ化しています。

定期的に更新されるコンテンツと合わせて、選手にもお母さまにも勉強していただける環境が整っています。

子どもたち一人ひとりが自分の頭で考え、自分一人でも練習できる選手の育成を目指しています。

心・気・体・技を大切にする

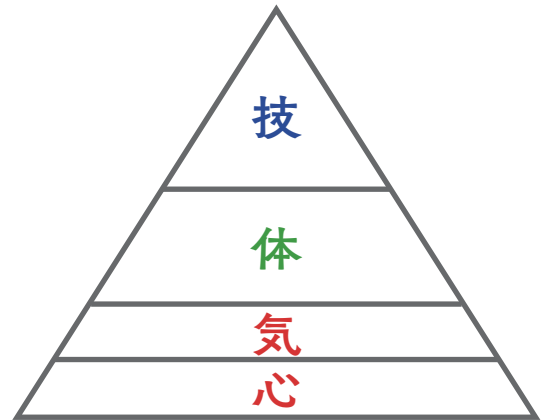
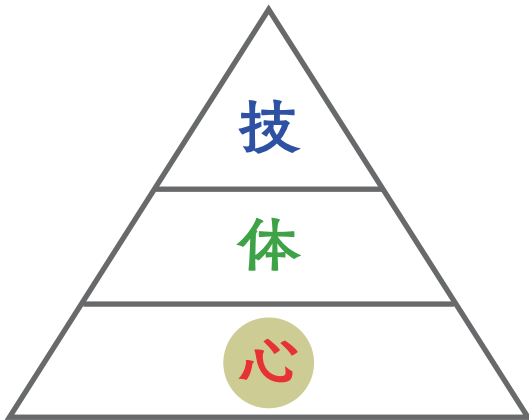
スポーツの世界でよく言われる「心」「技」「体」。

さらに、東都クラブでは「気」の大切さを選手に強調します。「気」とは「心」から生まれるエネルギーのこと。

人間力が高くなれば、大きな「気」が生まれ、力強く「体」を動かすことができます。

そして鍛えぬいた「技」を発揮できるようになるのです。

アスリートの高い次元のパフォーマンスはこのように構成されているのです。



強いアスリートになるための目標

心： 人間力を磨く。野球ができるすべての環境に感謝とリスペクト。スポーツマンシップを身につける。

気： 気力、気合、気迫、覇気、元気。ここ一番で力を発揮できる強い気持ちと心を鍛える。

体： 体格や体力だけではない。股関節や肩甲骨の柔軟性と可動域の開発は技術力に直結する。
技術を吸収できる身体作りを行う。ムーブメントスキル、トレーニングスキルを身につけよう。

技： スポーツはサイエンスである。頭で技術を習得しよう。理屈を知らなければ技術は向上しない。

また、中長期の自己目標をつくり、スケジュール管理できる能力を身につけよう。これも「技」の一環である。



スポーツマンシップとは何か

スポーツマンシップという言葉をよく耳にしますが、明確に定義できる人は少ないと思います。

私は日本スポーツマン協会の言うスポーツマンシップに共感しアスリートとしての心の教育に活用させていただいています。

スポーツマンシップの3要素

尊重 (RESPECT) : 対戦相手、審判、ルールを尊重(リスペクト)する

勇気 (BRAVENESS) : 自ら責任をもって決断し実践する勇気を持つ

覚悟 (RESOLUTION) : 勝利を目指し全力で戦う。その結果を受け入れる覚悟を持つ



3チーム制について

東都クラブ 球団 (=オール東都京葉)

：京葉ボーイズ (全国大会出場 13 回。全国制覇 3 回。ジャイアンツカップ準優勝)

：京葉下総ボーイズ (関東大会出場 3 回。ベスト 8 進出)

：八街京葉ボーイズ (2021 年 9 月連盟登録)

東都クラブでは、ボーイズリーグに加盟する 3 チームを編成しています。

私たちの目的は育成にありますので、より多くの子供たちをバンバン公式戦に出場させ、成功や失敗の体験を沢山させてあげたいと考えました。

ボーイズリーグのルールに従い 3 チームを編成していますが、クラブの考え方はあくまでも

1 チーム・東都クラブ京葉ボーイズです。公式戦に出場するためのユニット(クラス分け)だと考えています。

実際に選手の成長に合わせ毎年 2 月と 8 月にクラス分けを行っています。

3 チーム編成の意義は、

- ・選手の成長に合わせた適切な指導ができること。
- ・メンバ全員が熾烈な競争に積極参加することで個のレベルアップにつながる。
- ・結果、チーム力がアップし勝利につながる。その果実はオール東都京葉のものである。

負けたって良いではないですか。今日の負けは明日の糧にきつとなります。勝ち続ける人生なんてありえないのですから。

大切なのは全力で戦うこと。そしてその結果を潔く受け入れる覚悟をもつこと。そこに自己成長があると私は信じています。



進学に関して

東都クラブでは進路指導をもっとも大切に考えています。

高校進学は子供たちにとって初めて自分の人生と向き合う人生の岐路、真剣勝負だからです。

クラブでは1年次から定期的に進路指導面談を行い、年に2回の進路指導の面談を実施しています。

全国の高校野球関係者と全国ネットワークで子供たちの進学を強力にサポートします。

主な進路について

卒団生の進路は、甲子園常連の強豪校だけではなく、有名大学付属校、文武両道を目指す進学校など多岐にわたります。

近年の進学先

大阪桐蔭高、日大三高、横浜高、学法石川、常総学院、二松学舎、一関学院、昌平高、浦和学院、早大学院、早稲田佐賀、慶應義塾、明大中野、法政二高、国学院久我山、成田高、八千代松陰、習志野、市立船橋、県立船橋高、佐倉高、八千代高、幕張総合高など



東都京葉 13 年の軌跡

我らかく戦えり！

2022 年	第 34 回東日本選抜大会 準決勝進出 (京葉 12 期生) 第 34 回東日本選抜大会 出場 (下総 12 期生) 第 16 回全日本中学野球選手権大会 準優勝 (11 期生) 第 25 回関東ボーイズリーグ大会優勝 (11 期生)
2021 年	第 33 回東日本選抜大会 準決勝進出 (11 期生) 第 46 回関東大会出場 (10 期生) 第 52 回選手権大会出場 (10 期生) 第 51 回春季全国大会準決勝進出 (10 期生)
2020 年	第 32 回東日本選抜大会優勝 (10 期生) 第 45 回関東大会出場権獲得 (9 期生) 第 51 回選手権大会出場権獲得 (9 期生) 第 50 回春季全国大会出場権獲得 (9 期生)
2019 年	第 31 回東日本選抜大会出場権獲得 (9 期生) 第 13 回全日本中学野球選手権大会出場 (8 期生) 第 50 回選手権大会優勝 (8 期生) 第 22 回関東ボーイズリーグ大会優勝 (8 期生) 第 49 回春季全国大会優勝 (8 期生)

2018年	第30回東日本選抜大会優勝（8期生） 第43回関東大会準々決勝進出（7期生） 第21回関東ボーイズリーグ大会準々決勝進出（7期生） 第48回春季全国大会準優勝（7期生）
2017年	第48回選手権大会出場（6期生） 第20回関東ボーイズリーグ大会準々決勝進出（6期生） 第47回春季全国大会優勝（6期生）
2016年	第28回東日本選抜大会準々決勝進出（6期生） 第41回関東大会出場（5期生） 第46回春季全国大会準々決勝進出（5期生）
2015年	第27回東日本選抜大会準々決勝進出（5期生）
2014年	第17回関東ボーイズリーグ大会準決勝進出（3期生） 第44回春季全国大会出場（3期生）
2013年	第25回東日本選抜大会準々決勝進出（3期生） 第38回関東大会出場（2期生） 第44回選手権大会準決勝進出（2期生） 第16回関東ボーイズリーグ大会準々決勝進出（2期生）
2012年	第24回東日本選抜大会出場（2期生） 第42回春季全国大会出場（1期生）